

dBTechnologies

VIO S115

プロフェッショナル アクティブ サブウーファー

取扱説明書

VIO S115



安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

	<p>警告 以下の内容を見逃して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。</p>
 <p>電源プラグをコンセントから抜く</p>	<p>万一、異常が起きたら 煙が出たり、変なにおいや音がするときは 機器の内部に異物や水などが入ったときは この機器を落とした、カバーを破損したときは すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。 異常状態のまま使用すると、火災/感電の原因となります。 お買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)に修理をご依頼ください。 万一、煙が出ていたり、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災や感電の原因となります。 すぐに機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。 煙が出なくなるのを確認して、販売店まで修理をご依頼下さい。</p>
 <p>指示</p>	<p>電源プラグにほこりをためない 電源プラグとコンセントの周りにゴミやほこりが付着すると、火災/感電の原因となります。 定期的(年1回くらい)に電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。</p>
 <p>禁止</p>	<p>電源コードを傷つけない 電源コードの上に重い物を載せたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない 電源コードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない コードが傷んだまま使用すると火災/感電の原因となります。 万一、電源コードが破損したら(芯線の露出、断線など)、お買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)に交換をご依頼ください。</p> <p>付属の電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。</p> <p>交流 100 ボルト以外の電圧で使用しない この機器を使用できるのは日本国内のみです。 表示された電源電圧(交流 100 ボルト)以外の電圧で使用しないでください。 また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。 火災/感電の原因となります。</p> <p>この機器を設置する場合は、放熱をよくするために、壁や他の機器との間は少し(20 cm以上)離して設置する 隙間を空けないと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の通風孔をふさがない 通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。</p> <p>この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込む、または落とさない 火災/感電の原因となります。</p> <p>適切な器具を用いることなくスピーカーを吊り下げない スピーカーのハンドル部を使って吊り下げない 落下や故障の原因となります。</p>
 <p>禁止</p>	<p>機器の上に花瓶や水などが入った容器を置かない 内部に水が入ると火災/感電の原因となります。</p>

 警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	
 指示	<p>設置の際は、資格や経験を持った人(専門業者)に必ず依頼する 天井や壁掛け設置、床などに設置の際は、設置場所の強度を確保する 使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。 天井/壁/柱/床などに設置する場合は、設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。</p> <p>この機器は32.8 kg あり大変重いので、開梱や持ち運びの際はけがをしないように注意する</p>
 分解禁止	<p>この機器の分解を絶対に行わない カバーを外す、または改造すると、火災/感電の原因となります。 内部の点検/修理はお買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご依頼ください。</p> <p>この機器を改造しない 火災/感電の原因となります。</p>

 注意 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。	
 電源プラグをコンセントから抜く	<p>移動させる場合は、電源のスイッチを切るか、またはスタンバイにし、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す コードが傷つき、火災/感電の原因や、引っ掛けてけがの原因になることがあります。</p> <p>旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。</p>
 指示	<p>オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明にしたがって接続する また、接続は指定のコードを使用する</p> <p>電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となる場合があります。</p> <p>この機器はコンセントの近くに設置し、電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐに電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。</p> <p>この機器には、付属の電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。</p>
 禁止	<p>ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない 湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たる場所に置かない 火災/感電やけがの原因となる場合があります。</p> <p>電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災/感電の原因となる場合があります。 必ずプラグを持って抜いてください。</p>
 禁止	<p>濡れた手で電源プラグを抜き差ししない 感電の原因となる場合があります。</p>
 注意	<p>5年に1度は、機器内部の掃除をお買い上げの販売店またはティアック修理センター(巻末に記載)にご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となる場合があります。 特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。</p>

目次

安全にお使いいただくために	2
はじめに	4
本製品の構成	4
本書の表記	4
ユーザー登録について	4
設置上の注意	5
結露について	5
製品のお手入れ	5
アフターサービス	5
商標および著作権に関して	5
本機の概要	6
主な特徴	6
機構上の特長	6
設置用別売りアクセサリ	7
適合ケーブル	7
各部の名称	8
電源パネル	8
コントロールパネル	8
電源および外部機器との接続	10
電源と電源リンクの接続	10
オーディオ信号の接続	10
RDNet の接続	10
設置について	11
設置と構成	11
フライング設置	11
スタック設置	11
音響シミュレーションプログラムについて	12
システム設定ファイル (*.GLL) のダウンロード	12
リモート操作	12
AURORA NET ソフトウェアについて	12
AURORA NET のダウンロード先	13
RDNet コントロールインターフェースの取扱説明書 ダウンロード先	13
dBTechnologies Composer について	13
dBTechnologies Composer のダウンロード先	13
F/W アップデート	14
トラブルシューティング	14
仕様	15
一般	15
寸法図	16

はじめに

このたびは、dBTechnologies VIO S115をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいた上で、末永くご愛用くださいますようお願い申し上げます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。

- 取扱説明書 (日本語) は、TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

https://tascam.jp/jp/product/vio_s115/top

- 最新版の取扱説明書 (英語) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"VIO" の項目を選択して、上段 "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。

なお、開梱は本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体 (VIO S115) ×1
- Neutrik powerCON TRUE1 付 電源コード ×1
(定格: 電圧125V / 電流 15A)
- 取扱説明書 (本書、保証書付き) ×1

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「POWER」のように太字で表記します。
- 本機のディスプレイに表示される文字を「MAIN」のようば「__」で使って表記します。

ヒント

本機を、このように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などを記載します。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

ユーザー登録について

dBTechnologies の下記ウェブサイトにて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

<http://www.dbtechnologies.com/en/support/register/>

- 各種ソフトウェア、および F/W アップデーターをダウンロードする場合、ユーザー登録が必要になります。

設置上の注意

- 設置は、資格や経験を持った人（専門業者）が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 本製品を使用する国の法律、および安全規格を遵守してください。また、安全に使用するため、使用前に定期的に全てのパーツが正常な状態であることを確認してください。
- フライニング構成またはスタック構成の設計、計算、設置、テスト、メンテナンスは、認定された専門家が行ってください。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。
 - 暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
 - 極端に温度が低い場所
 - 湿気の多い場所や風通しが悪い場所。
- 放熱をよくするために、本機の上には物を置かないでください。
- 熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。
- 本機の近くに大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出る、またはラジオからの雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発進時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。（設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。）
- AEB Industriale 社およびティアック株式会社は、適切な安全対策が施されていない不適切な設置に対して責任を負いません。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置してから電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布でからぶきしてください。
化学雑巾、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷める、または色落ちさせる原因となります。

アフターサービス

- この製品には、保証書が添付（巻末に記載）されています。大切に保管してください。万が一お買い上げの販売店印の捺印やご購入日の記載が無い場合は、無料修理保証の対象外になりますので、ご購入時のレシートなどご購入店 / ご購入日が確認できるものを一緒に保管してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年です。保証期間中は、保証書に記載の無料修理規定によりティアック修理センター（巻末に記載）が無料修理致します。その他の詳細については、保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理については、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）にご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、お買い上げの販売店またはティアック修理センター（巻末に記載）までご連絡ください。
- 修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
 - 型名、型番（MO S115）
 - 製造番号（Serial No.）
 - 故障の症状（できるだけ詳しく）
 - お買い上げ年月日
 - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 本機を廃棄する場合に必要な収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

商標および著作権に関して

- TASCAM およびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista および Windows Media は、米国 Microsoft Corporation の米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Neutrik および etherCON は、Neutrik AG の登録商標です。また、powerCON および TRUE1 は、Neutrik AG の商標です。
- Digipro は AEB INDUSTRIALE SRL の商標です。
- dBTechnologies は A.E.B Industriale SRL のそれぞれの国における商標または登録商標です。
- EASE® is a registered trademark of AFMG Technologies GmbH.
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

本機の概要

dBTechnologies **VIO S115**は、VIOシリーズの中で最もコンパクトなアクティブサブウーファーです。

このアクティブサブウーファーは長年のスピーカー開発の経験から生み出されており、音響的にも電氣的にも最適化された技術や相応しい素材で作られています。

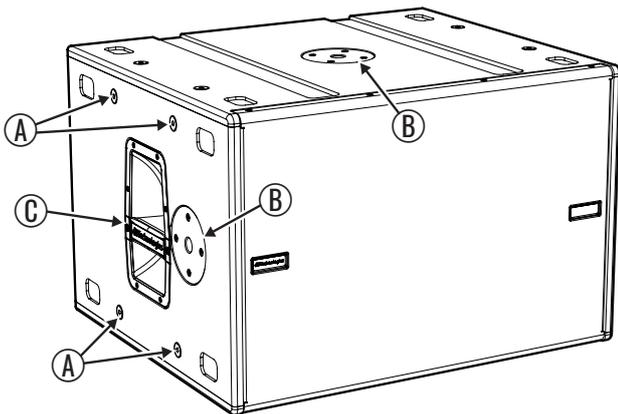
VIO Xシリーズのフルレンジスピーカーを完璧に補完し、パワー、技術革新、最適化されたデザインを融合させた最高品質のサウンドシステムです。

主な特徴

- バスレフ構造
- 表面の耐久性を高めるポリウレタコーティングが施された合板を使用
- 専用アクセサリにより、スタック、フライングどちらでも使用可能
- Digipro G3 アンプ (クラス D) によって、最大 SPL で134 dB(1 m)、RMS 900 W を出力する静音アンプを搭載
- 全ての入力端子と操作子を本体リア側アンプ部の操作パネルに集約
- 電源やオーディオ信号の最適なワイヤリングができるデジチェーン接続に対応
- RDNet コントロールボードを内蔵し、リモート管理ソフトウェア dBTechnologies **AURORANET** に対応
また、AFMG Technologies 社製 **EASE FOCUS 3** (フリーウェア) の音響シミュレーションプログラム (Windows 対応のみ) にも対応しています。
(12 ページの「音響シミュレーションプログラムについて」を参照)

機構上の特長

フライング構成でもスタック構成でも迅速な設置が可能なデザインは次のような特長を備えています。



① 固定ポイント

- リンクプレート LP-4 を使用して、2 台目の **VIO-S115** を接続してスタックまたはフライング構成が可能。
- リンクプレート LP-4 を使用して、フライバー DRK-1 または DRK-2 に接続して吊り下げることが可能。
- リンクプレート LP-5 を使用して、アクティブスピーカー VIO X206 と接続可能。

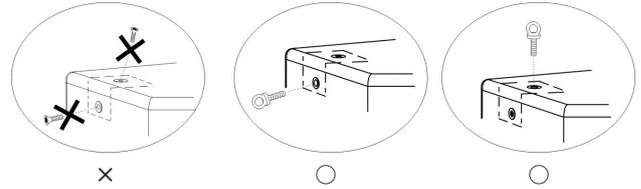
② スレッドホール

M20 径のポールを使用して、複数のスピーカーを接続可能。

③ 運搬用ハンドル (各側面に1ヶ所ずつ装備)

注意

- 本機の運搬用ハンドルを利用して固定しないでください。
- 固定ネジを同時に外さないでください。各フライングポイント1ヶ所ずつ外してください。

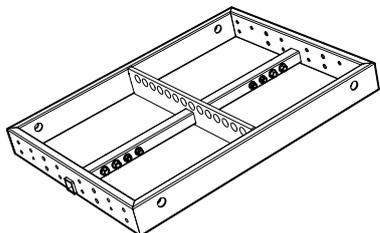


設置用別売りアクセサリ

輸送や本体設置のために下記の別売りアクセサリが、ご使用になれます。

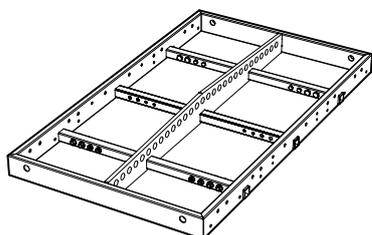
DRK-1 フライバー

他の VIO-S115 との接続用



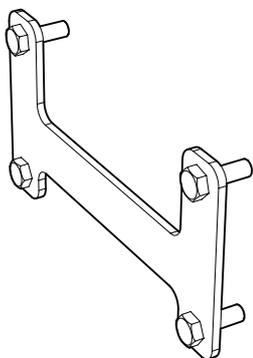
DRK-2 マルチフライバー

他の VIO-S115 との接続用



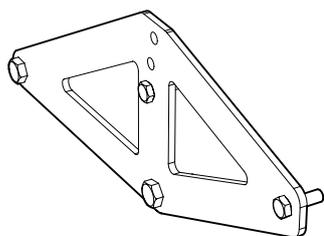
LP-4 リンクプレート

複数の VIO-S115 どうしの接続、またはフライバー DRK-1 や DRK-2 との接続用



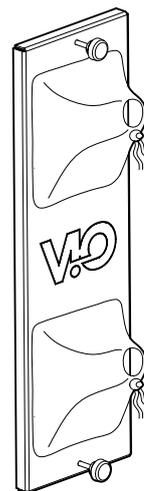
LP-5 リンクプレート

アクティブスピーカー VIO X206 とスタック構成またはフライング構成での接続用



RC-1 レインカバー

屋外使用時に、アンプ部やコントロール部を雨から防ぎます。



メモ

dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用すると、設置する方法によって、安全な耐荷重を確認することができます。(13 ページの「dBTechnologies Composer について」を参照)

注意

- 別売りアクセサリを安全にお使いいただくために、使用前など定期的にしっかりと固定 / 組み立てられているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 指定の荷重や台数を超えての設置は、機器または人に損害を与える恐れがあります。

各アクセサリの取扱説明書

dBTechnologies のウェブサイトより、各アクセサリの取扱説明書をダウンロードできます。

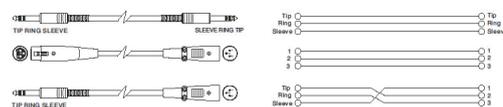
"Installation" の項目を選択して、上段の "Manuals" の列から対象となるアクセサリの PDF ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

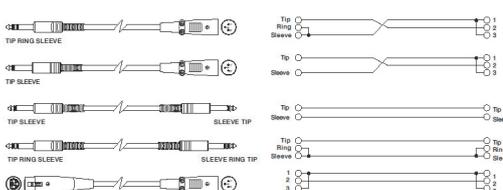
適合ケーブル

本機に適合するオーディオケーブルには、以下のタイプがあります。

バランスケーブル



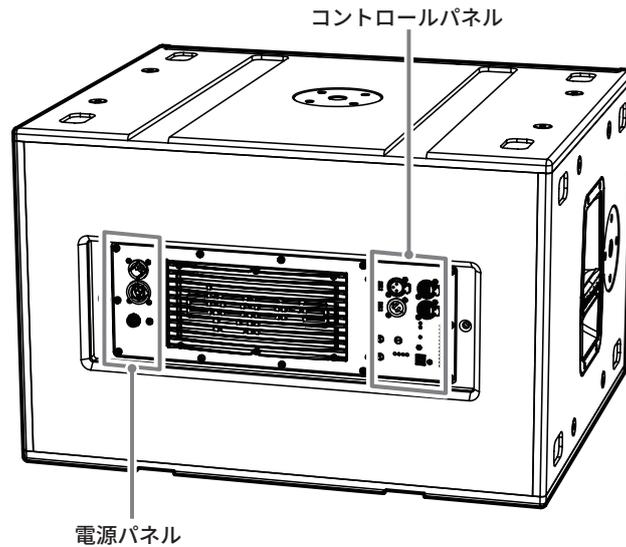
アンバランスケーブル



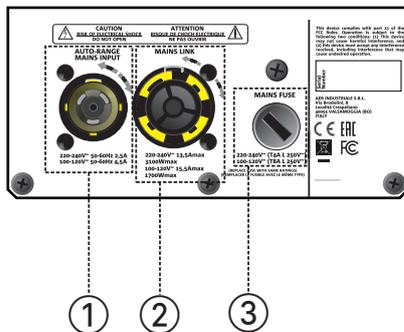
注意

ケーブルの接続 / 取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。

各部の名称



電源パネル



① AUTO RANGE MAINS INPUT (電源入力端子)

付属の Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付電源コードを接続します。電源コードを接続して、プラグ端子を時計回りに回転させると端子がロックして、電源が入ります。

注意

- 電源を入れる前に必ず、本機の **SUB Attenuation** (⑥) のレベルが [mute] の位置にあること、また音源側の機器は音声出力を行っていない、または音量が最小であることを確認して下さい。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

② MAINS LINK (リンク電源出力端子)

リンク電源用の出力端子で Neutrik 社製 powerCON TRUE1 端子を採用しており、電源入力端子と並列で接続されています。ご使用時は、別売りの専用 Neutrik 社製 powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルをお使いください。

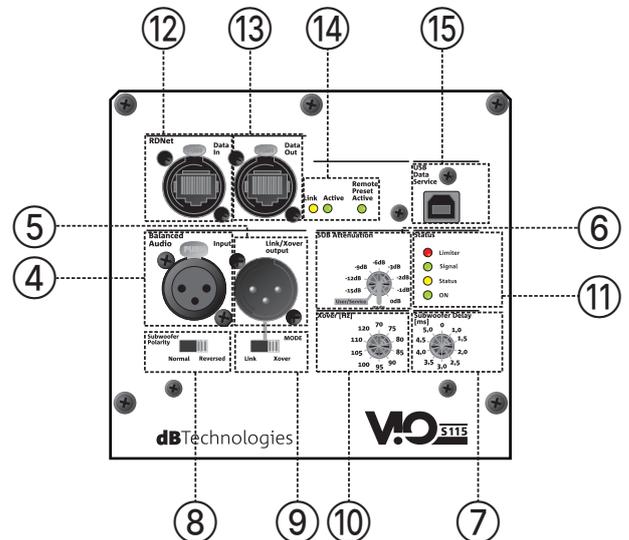
接続可能な機器の台数については、仕様欄をご覧ください。

③ MAINS FUSE (電源ヒューズ)

電源ヒューズが格納されています。

万一、動作しなくなった場合は、電源コードを抜いてティアック修理センター (巻末に記載) にご相談ください。

コントロールパネル



④ Balanced Audio Input (オーディオ入力端子)

バランス XLR 対応のオーディオ入力端子で、ミキサーや他のスピーカー (音源) からの入力が可能です。

⑤ Balanced Audio Link/Xover Output (オーディオ出力端子)

バランス XLR 対応のオーディオ出力端子で、出力信号は **MODE** スイッチ (⑨) で Link、または Xover を選択することが可能です。

- **Link** : 入力される信号と同じ信号を他のサブウーファーやアクティブスピーカーに出力します。
- **Xover** : 本機によってクロスオーバー処理された信号を他のスピーカーに出力します。

メモ

クロスオーバー周波数の設定は、**Xover [Hz]** (⑩)、または dBTechnologies **AURORANET** 上で行えます。

⑥ SUB Attenuation (サブウーファー・アテネーション調整つまみ)

入力信号を処理してサブウーファー信号の感度を調整します。この設定を変えても出力端子から出力される Link 信号や Xover 信号には影響しません。

電源を投入する前は必ず、[mute] の位置に設定してください。

⑦ Subwoofer Delay [ms]

(サブウーファー・ディレイ調整つまみ)

サブウーファーから再生される音を0~5.0msの範囲において0.5ms刻みで調整します。複数のサブウーファーやラインアレイスピーカーなど、設置場所による到達時間のズレを調整します。

⑧ Subwoofer Polarity (フェーズ切り換えスイッチ)

サブウーファーのフェーズを切り換えるスイッチです。複数のサブウーファーどうし、または他のラインアレイスピーカーとのフェーズを揃えたり、カーディオイド構成にしたりする場合に便利です。

⑨ MODE (Link/Xover 切り換えスイッチ)

Balanced Audio Link/Xover Output (⑤) から出力される信号の種類を選択できます。

⑩ Xover [Hz] (Xover 周波数調整つまみ)

Xover 信号のクロスオーバー周波数を下記の値から選択できます。

- 70/75/80/85/90/95/100/105/110/120 Hz

処理された信号は、MODE スイッチ (⑨) で [Xover] が選択されている場合に出力端子から出力されます。

⑪ Status (ステータス LED)

- Limiter LED (赤色)

入力信号の歪み音や他の不具合で内部リミッターが作動した場合に点灯します。

(本機の不具合で停止した場合は、点滅します。)

これは、アンプ回路が信号の歪みを防ぎ、ユニットが過負荷になるのを防ぎます。

注意

Limiter LED が連続して点灯した状態は、入力信号の歪み音を伴う、過度の負荷をかかっている状態を示しています。そのままの状態、長時間連続使用しないでください。その場合、機器が壊れたりする原因となります。

- Signal LED (緑色)

オーディオ信号が入力されている時に点滅し、適正な入力信号時のみ点灯します。

その他の不具合で停止した場合は、消灯します。

- Status LED (黄色)

電源投入時に数秒間点灯し、正常な状態で動作している時は消灯しています。

アンプ内部の温度をモニターし、オーバーヒートの保護回路が作動した場合、Status LED が点滅することで知らせます。適正な内部温度になってから、音量と全ての機能は元通りに復帰し、消灯します。

その他の不具合で停止した場合は、点灯します。

- ON (緑色)

正常に状態で動作している時、またはその他の不具合で点灯します。

本機の不具合で停止した場合は、消灯します。

⑫ RDNet Data IN (RDNet ネットワーク入力端子)

ネットワークケーブル用の入力用の端子で、RDNet Control 8 や RDNet Control 2 と接続します。

⑬ RDNet Data Out (RDNet ネットワーク出力端子)

ネットワークケーブル用の出力用の端子で、デジチェーン接続により他の RDNet 対応スピーカーと接続します。

⑭ コントロール LED

RDNet によるネットワーク接続に関する LED です。

- Link

RDNet ネットワーク上にあり、本機が認識されている場合に点灯します。

- Active

データトラフィックがある場合に点滅します。

- Remote Preset Active

RDNet リモートコントロールによって本機の実操作パネルから設定されたすべてのローカル設定がバイパスされている場合に点灯します。

⑮ USB Data Service (サービス用 USB 端子)

この USB B 端子を使って、本機のファームウェアを更新することができます。

詳細は、14 ページの「F/W アップデート」を参照してください。

注意

サービス用 USB 端子は、本製品のファームウェアアップデート専用です。破損や故障の原因となるため、他の USB 機器を接続しないでください。

電源および外部機器との接続

本機はデジチェーン接続でき、電源とオーディオ信号を1台目のスピーカーから、2台目以降のスピーカーに供給することができます。また、RDNet ネットワーク接続が可能です。

電源と電源リンクの接続

電源の接続

AUTO-RANGE MAINS INPUT(①)に、付属の Neutrik powerCON TRUE1 付電源コードを接続し、時計回りに端子を回転させてロックしてください。ロックされると電源が入ります。また、電源を落とす場合は、逆の手順で取り外してください。

注意

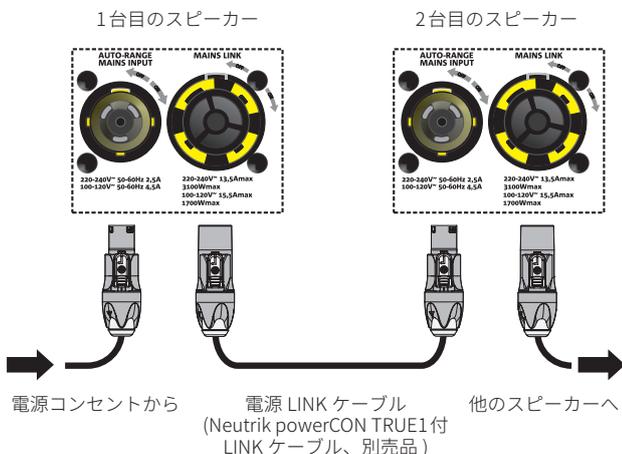
- 電源を入れる前に、必ず本機の **SUB Attenuation (⑥)** の位置が **[mute]** であることを確認してください。
- 電源コードは、必ず付属の Neutrik powerCON TRUE1 付電源コードをご使用ください。また、電源 LINK ケーブルは、必ず Neutrik powerCON TRUE1 付 LINK ケーブル (別売り) をお買い求めの上、ご使用ください。それ以外のケーブルを使用すると感電およびスピーカーの動作に影響する場合があります。(弊社は、不適切なケーブルやコード類またはアクセサリを使用もしくは追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。
- ケーブルの接続や取り外しは、必ず電源を切って電源コードを全て外した状態で行ってください。
- 濡れた手または、機器や電源コードが濡れた状態で、絶対に電源コードの接続や取り外しをしないでください。感電および機器を破損する恐れがあります。

電源リンクの接続

電源との接続、およびスピーカーどうしの接続は、以下の手順で接続してください。

1. 1台目のスピーカーの **AUTO RANGE MAINS INPUT (①)** と電源装置を付属の powerCON TRUE1 付端子ケーブルで接続する。
2. 1台目のスピーカーの **MAINS LINK (②)** と、2台目のスピーカーの **AUTO RANGE MAINS INPUT (①)** を接続する。

この手順を繰り返して、スピーカーを最大供給電流の範囲まで接続可能です。(接続可能台数は、仕様欄を参照してください。)

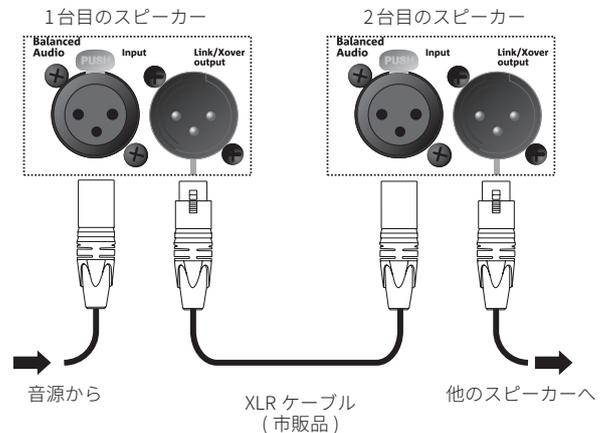


オーディオ信号の接続

オーディオ信号の接続、およびスピーカーどうしの接続は、以下の手順で接続してください。

1. 1台目のスピーカーの **Balance Audio Input (④)** と音源装置を XLR 端子ケーブルで接続する。
2. 1台目のスピーカーの **Balance Audio Link/Xover Output (⑤)** と2台目のスピーカーの **Balance Audio Input (④)** を接続する。

この操作を繰り返して、システム構成の全てのスピーカーを接続してください。



注意

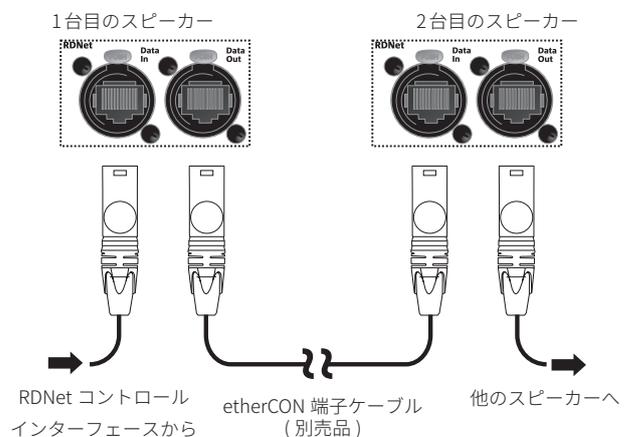
- 電源を入れる前には、音源側の機器は音声出力を行わない、または音量を最小にして下さい。
- 不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは新しいものと交換してください。

RDNet の接続

RDNet コントロールインターフェースとの接続、およびスピーカーどうしの接続は、以下の手順で接続してください。

1. 1台目のスピーカーの **RDNet Data IN (⑫)** と別売りの RDNet コントロールインターフェース (**RDNet Control 8**、または **RDNet Control 2**) を etherCON 端子ケーブル (別売り) で接続する。
2. 1台目のスピーカーの **RDNet Data Out (⑬)** と2台目のスピーカーの **RDNet Data IN (⑫)** を接続する。

スピーカーの電源がオンになると、**Link LED** が点灯して接続が完了したことを示します。他の **Active LED** が点滅を始め、データ通信が行われている時は **Active LED** が点滅します。



- 本機をネットワーク接続で制御をする場合、入力感度調整 / DSP 等の設定は、ネットワークでの設定が優先されます。(スピーカー単体での設定は、使用されません。)
- RDNet ネットワークの使用の詳細は、12 ページの「リモート操作」を参照してください。

設置について

電源を入れる前に、必ず、本機背面の **SUB Attenuation** (⑥) の位置が [mute] であることを確認してください。

また、本機に接続している音源側の機器は音声出力を行っていない、または音量も最小にして下さい。

- 各端子類や操作部については、8 ページの「各部の名称」を参照してください。
- 電源コードの接続方法については、10 ページの「電源と電源リンクの接続」を参照してください。
- 各ケーブルの接続方法については、10 ページの「オーディオ信号の接続」、および「RDNet の接続」を参照してください。

注意

ここで紹介する設置方法以外で、絶対に設置しないでください。指示を守らない場合、人がけがをしたり、機器が壊れたりする原因となります。

- 設計・計算・設置・テスト・メンテナンスは、資格や経験を持った人(専門業者)が必ず行い、使用者は必ず安定性と安全性を確認して人や動物・機器に損害を与えないようにしてください。
- 設置部分の強度が機器の総重量に十分対応可能か確認してください。(設置部分の強度が不足している場合、落下や転倒して、人や動物・機器に損害の原因になります。)
- スピーカーを設置する前にすべての部品をチェックし、ダメージ・変形・歪み・欠落がないか確認し、設置中の安全に問題がないことを確認してください。また、本機の運搬用ハンドルを固定方法として、使用しないでください。
- 別売りアクセサリを安全にお使い頂くために、使用前など定期的にしかりと固定・組み立てされているかチェックしてください。(弊社は、不適切なアクセサリの使用、または追加による損傷に対していかなる責任も負いません。)
別売りアクセサリについては、7 ページの「設置用別売りアクセサリ」を参照してください。
- スピーカーは、必ず安定した場所に確実に設置してください。
- 安全上の理由により、適切な固定方法を用いることなくスピーカーを重ねて設置しないでください。
- 本製品を使用する国の法律、および安全規格を遵守してください。また、安全に使用するため、使用前に定期的に全てのパーツが正常な状態であることを確認してください。
- AEB Industriale 社およびティアック株式会社は、適切な安全対策が施されていない不適切な設置に対して責任を負いません。

メモ

本製品を安全に設置・設定するために、**EASE FOCUS** ソフトウェア(*) 用に作成された VIO-S 115 用 .GLL ファイルを用意しています。

* **EASE FOCUS** ソフトウェアについては、12 ページの「音響シミュレーションプログラムについて」を参照してください。

設置と構成

本機は、別売りの吊り下げフレーム(以降、“フライバー”と称します)を使って、ラインアレイまたはスタック構成が可能です。

メモ

本文中に出てくるフライバーやブラケットなどのアクセサリ類については、別売りになります。

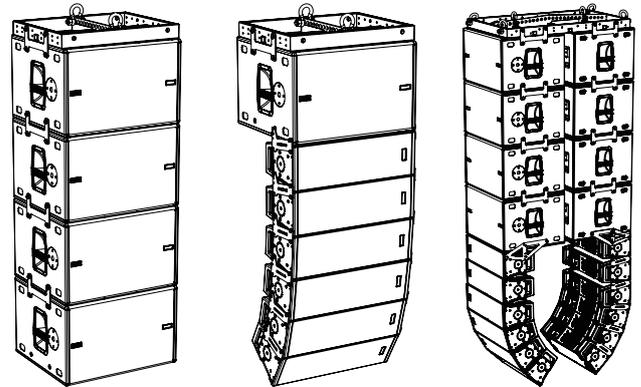
注意

主な安全規格に基づくフライング構成、またはスタック構成の最大接続台数は、フライバー本体のラベル、および各アクセサリの取扱説明書に記載されています。

フライング設置

フライバー DRK-1 または DRK-2 を使用することで、より大きなカバレッジを構成することができます。

フライバーはリンクプレート LP-4 を介して **VIO-S115** とフライバーに付属のネジで固定できます。また、リンクプレート LP-5 を使用して **VIO-S115** と VIO X206 アクティブスピーカーを接続することが可能です。



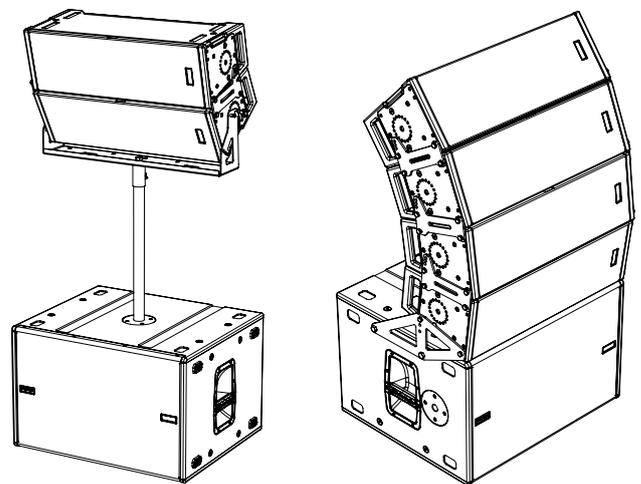
基本的な安全基準に従ったフライング構成の最大接続台数は、フライバー本体のラベルおよびフライバー付属の説明書に記載されています。

リグやフライング支持点に最大負荷がかかるような構成については、許容接続台数の確認のためフライバー付属の取扱説明書をご覧になるか、またはティアック株式会社(巻末に記載)までお問い合わせください。

スタック設置

本製品は床置きスタック設置で使用することもできます。

以下に示す設置例は、あくまでも説明のためのものです。



注意

- 本機の運搬用ハンドルを吊り下げ目的で絶対に使用しないでください。吊り下げる場合は、必ずメーカー純正のブラケットなどのアクセサリを使用してください。
- 屋外で使用する場合は、風による転倒を防ぐためアンカーなどでしっかり固定することをお勧めします。

音響シミュレーションプログラムについて

本製品を安全に設置・設定するために、AFMG Technologies 社製 EASE FOCUS 3 (フリーウェア) の音響シミュレーションプログラム (Windows 対応のみ) を併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。

また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、吊り下げフレーム (DRK-1、または DRK-2) の静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイモジュール設置の安全性を確認できます。

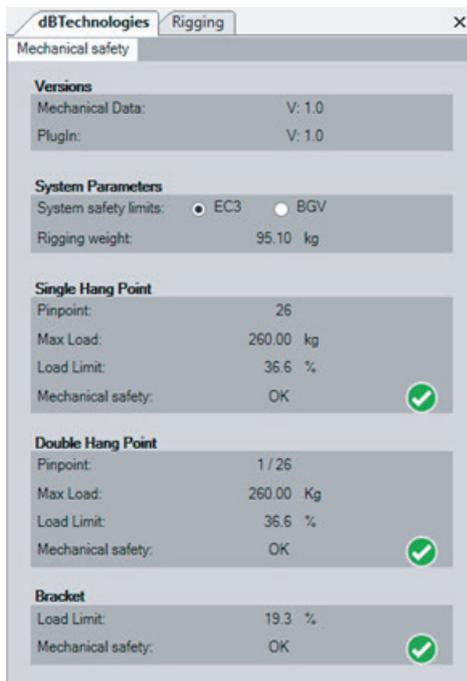
必要なメカニカルな安全性のチェックやプラグインにも対応した EASE FOCUS 3 用に作成されたシステム設定ファイル (*.GLL) を用意しています。

システム設定ファイル (*.GLL) のダウンロード

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、「VIO」の項目を選択して、上段「GLL」の列から対象となるファイルをダウンロードしてください。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads/>

シミュレーションファイル (*.GLL) がプロジェクトに読み込まれると、安全な構成と各スピーカー / サブウーファーの位置決めガイドが案内され、最適な音響カバレッジを実現するスピーカーシステムのセットアップが可能です。



- ソフトウェアの使用に関して

本ソフトウェアは、AFMG Technologies GmbH に帰属し、使用に際しては、同社の定める使用許諾条件によります。

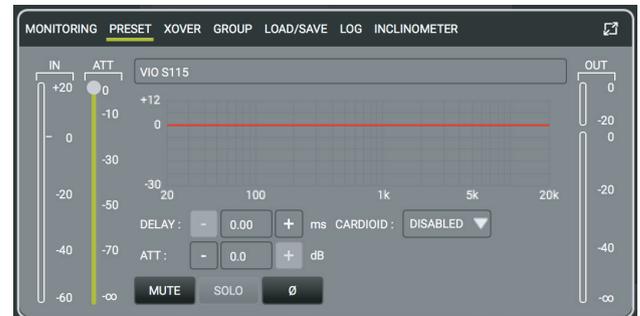
リモート操作

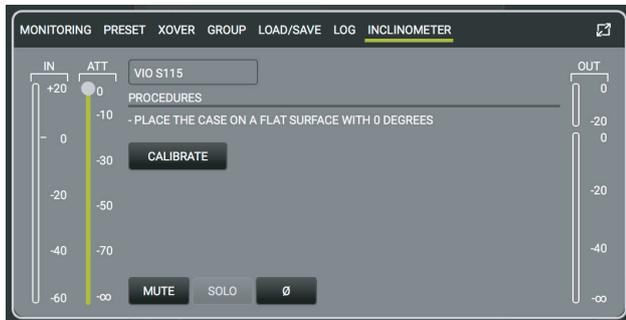
本機を RDNet コントロールインターフェース (RDNet Control 8、または RDNet Control 2) と接続し、スピーカーマネジメントソフトウェア AURORA NET を使って、RDNet ネットワーク上にあるスピーカースystemを制御、管理することができます。

AURORA NET ソフトウェアについて

AURORA NET ソフトウェアを使うことで、VIO-S115 サブウーファのいくつかのパラメーターをリアルタイムで管理できます。

- 入出力信号のモニター
- オーディオコンポーネントのオーディオコンプレッションの有無を確認
- 入力信号を0.5dB 刻みでアテネート調整が可能
- 0.1ms 刻みでディレイ調整が可能
- 2つ、ないし3つのサブウーファー構成によるアクティブ・カーディオイド・モード
- リンク・モードでは、ローパス・フィルターに適用するカットオフ周波数を70 ~ 120Hz のプリセット値から選択可能
- Xover 出力モードでは、出力信号に適用されるカットオフ周波数を70 ~ 120Hz のプリセット値から選択可能
- サブウーファーのフェーズを反転
- サブウーファーのミュート
- SOLO モードでサブウーファーを再生
- アンプ部の温度モニター
- サブウーファーのチルト角のキャリブレーション
- 設定をプリセットとして保存し、リモート操作で呼び出し可能





AURORA NET のダウンロード先

ソフトウェア取扱説明書

取扱説明書 (日本語) は、以下の TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

https://tascam.jp/jp/product/dbtechnologies_aurora_net/top

最新版の取扱説明書 (英語) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

セットアップファイル

メモ

事前に dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録を行ってください。(→2 ページ「ユーザー登録について」を参照)

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Software" の列から対象となる圧縮ファイル (zip 形式) をダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
"AuroraNet_x-x.zip"

セットアップファイルを解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。RDNet コントロールインターフェースについて

RDNet コントロールインターフェースは、RDNet システムと呼ばれる独自のネットワークインターフェースを搭載し、パソコンに RDNet 対応機器や周辺機器を接続できます。

RDNet コントロールインターフェースの取扱説明書ダウンロード先

ソフトウェア取扱説明書

取扱説明書 (日本語) は、以下の TASCAM のウェブサイトからダウンロードすることができます。

<https://tascam.jp/jp/>

最新版の取扱説明書 (英語) については、dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<https://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

- RDNet Control 2
- RDNet Control 8

dBTechnologies Composer について

VIO シリーズをお使いになる場合に、無料の dBTechnologies Composer ソフトウェアを併用されることをお勧めします。

このソフトウェアを使用すると、狙ったカバレッジを実現するためのラインアレイ構成のモジュール角度の解析や、選択したエリアに合わせたラインアレイ構成のシステム設定が行えます。また、設置の安全性を確認するためのツールとしても有効で、フライバーの静的動作をシミュレートすることで効率的に、耐荷重制限内での取付け可能なモジュールの数をあらかじめ確認することができ、ラインアレイ モジュール設置の安全性を確認できます。

dBTechnologies Composer のダウンロード先

ソフトウェア取扱説明書

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから、"Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Manuals" の列から対象となる PDF ファイルをダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
"Manual-dBTComposer_REVx-x.pdf"

セットアップファイル

メモ

事前に dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録を行ってください。(→2 ページ「ユーザー登録について」を参照)

ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから "Software & Controller" の項目を選択して、上段の "Software" の列から対象となる圧縮ファイル (zip 形式) をダウンロードしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>
"dBTechnologies_Composer_setup_x.x.x.zip"

解凍後、ソフトウェア取扱説明書の手順に従って操作してください。

F/W アップデート

本機の全ての機能を確実に使うためには、F/W を常に最新のものにしておくことをお勧めします。

定期的に dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページをチェックしてください。

<http://www.dbtechnologies.com/en/downloads.aspx>

F/W の更新があった場合は、以下の手順でアップデートすることができます。

メモ

事前に dBTechnologies のウェブサイトで、お客様のユーザー登録を行ってください。(→2 ページ「ユーザー登録について」を参照) ユーザー登録を完了し、ログインを行わないとソフトウェアのダウンロード先 (MY DOWNLOAD ページ) に移動しません。

USB Burner Manager ソフトウェアのダウンロード

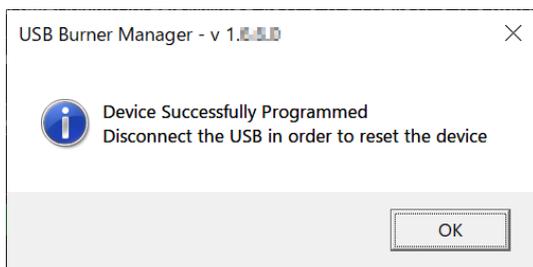
1. dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから "Software & Controller" の項目を選択して、[USB BURNER MANAGER] ソフトウェアをダウンロードし、表示される手順に従ってインストールする。

F/W アップデートのダウンロード

2. dBTechnologies のウェブサイトのダウンロードページから "VIO" の項目を選択して、上段の "Firmware" の列と対象となる "VIO" 機種種の行から、最新の F/W ファイル (zip 形式) をダウンロードする。
3. ダウンロードしたファイルを解凍する。

F/W アップデート

4. 本機とパソコンを USB ケーブル (別売り) で接続する。本機の通信用 USB 端子は、8 ページの「各部の名称」を参照してください。
5. [USB BURNER MANAGER] ソフトウェアを起動し、画面右上から、"File Opening..." を選択する。
6. 解凍した F/W ファイルを選択する。(お使いのシステムに最適かチェックします。)
7. "UPDATE" をクリックする。アップデート作業がスタートします。
8. アップデート作業が完了するとパソコンに下記画面を表示します。



以上で、アップデートは完了です。本機から USB ケーブルを外してください。

注意

- アップデート中は、本機、パソコンの電源を切らないように注意してください。
- アップデート中は、USB ケーブルを抜かないください。
- アップデート途中で電源が切断されたり USB の挿抜を行うと、起動できなくなる恐れがあります。
- 充電用 USB ケーブルは使用できません。
- F/W アップデート後の電源投入で、本機に保存した各種設定が失われる場合があります。

トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。

それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

スピーカーの電源が入らない

- 電源機器をチェックして電源が供給されている事を確認してください。
- Neutrik powerCON TRUE1 付 電源コード および Neutrik powerCON TRUE1 付 LINK ケーブルの端子が、しっかり接続されているか確認してください。

スピーカーの電源は入るが、音が出ない

- 各入力端子が正しく接続されており、Neutrik powerCON TRUE1 付 電源コードを使用されているか、確認してください。
- ケーブルに損傷がないか確認してください。
- 接続したミキサーなどの音源に電源が入っている状態で、オーディオ信号が出力されているか確認してください。
- 接続した機器や本機の SUB Attenuation (⑥) をチェックし、適正な位置に合わせてください。
- RDNet ネットワークに接続して dBTechnologies Network ソフトウェアで制御している場合は、MUTE 機能が無効になっていることを確認してください。

スピーカーからの音が歪んでいる、または十分な音量でない

- dBTechnologies Composer ソフトウェアを使用して、プロジェクト、設置および構成の仕様を確認してください。
- Subwoofer Polarity (⑧) / MODE (⑨) の各スイッチが、システムの構成に適切な設定になっているか確認し、本機のコントロール部から実際に調整して再現してください。(なお、本機がリモートコントロールされている場合、本機のローカル設定はバイパスされますので、注意してください。)
- SUB Attenuation (⑥) / Subwoofer Delay [ms] (⑦) / Xover [Hz] (⑩) の各つまみの位置を適切な値に合わせてください。
- RDNet ネットワーク接続および dBTechnologies Network ソフトウェアから制御している場合は、全てのパラメーターが適切な値に設定されていることを確認してください。
- 使用しているケーブルに損傷がないか確認してください。損傷している場合は、新しいケーブルと交換してください。(不具合や音質劣化を防ぐために、ダメージを受けたケーブルは、新しいものと交換してください。)

仕様

形式

バスレフ式アクティブサブウーファー

スピーカーユニット

LF : 15インチ (4インチ ボイスコイル)

指向性: 無指向性

アンプ部

形式 : Digipro® G3

ピーク出力 : 1800 W

RMS 出力 : 900 W

冷却システム : ファンレス・対流式

DSP 部

コントローラー : DSP 32 bit

AD/DA 処理 : 24 bit/96 kHz

リミッター : ピーク、RMS、サーマル

警告 LED : リミッター、シグナル、ステータス、電源オン

状態 LED : リンク、アクティブ、リモート、プリセット、
アクティブ

コントロール

ディレイ調整 : 0/1.0/1.5/2.0/2.5/3.0/3.5/4.0/4.5/
5.0 [ms]

入力感度調整 : 0 dB/-1 dB/-2 dB/-3 dB/-6 dB/-9 dB/
-12 dB/-15 dB/mute

クロスオーバー周波数調整
: 70/75/80/85/90/95/100/
105/110/120 [Hz]

出力モード切り換え スイッチ (Link/Xover)

フェーズ切り換え スイッチ (Normal/Reversed)

音響データ

周波数特性

[-6 dB] : 40 Hz ~ (X-Over 周波数に依存)

[-10 dB] : 36 Hz ~ (X-Over 周波数に依存)

最大 SPL (1m) : 134 dB (max)

クロスオーバー周波数 : 70 Hz ~ 120 Hz の範囲で選択可

外部入力

Input 端子 : XLR 端子 (ソケット) × 1 (バランス)

USB 端子 : B タイプ × 1

RNet 端子 : etherCON 端子 × 1 (Neutrik社製)

外部出力

Link/Xover 端子 : XLR 端子 (プラグ) × 1 (バランス)

電源 Link 端子 : powerCON TRUE1®端子 × 1 (Neutrik社製)
(最大供給電流: 15.5 A/1700 W)

RNet 端子 : etherCON 端子 × 1 (Neutrik社製)

一般

電源

電圧 : AC 100 V ~ 240 V (自動切替式)、50/60 Hz

電源端子 : Neutrik 社製 powerCON TRUE1®端子

注意

日本国内においては、AC100Vのみ動作保証となります。

(それ以外の電圧で、使用しないでください。)

消費電流

1.79 A (100~120 V 時) ※1

3.75 A (100~120 V 時) ※2

消費電力

40 W ※3

※ 1: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/8の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングがほとんど発生しない状態)
いかなる構成時でもこれを最小値としてください。

※ 2: 通常の使用状況で、フルパワー出力の1/3の場合の消費電力
(音楽再生中にクリッピングとリミッターの作動が頻繁に発生
する状態)
プロ設備やツアーの場合は、これらの値に従ってサイジング
を決めてください。

※ 3: 電源オンで入力信号がない時

突入電流

21.04 A

外形寸法

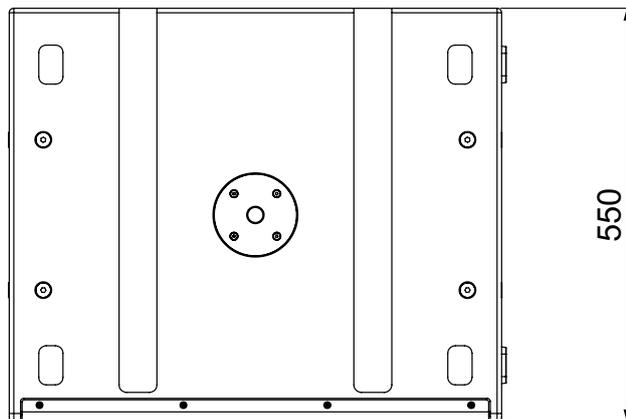
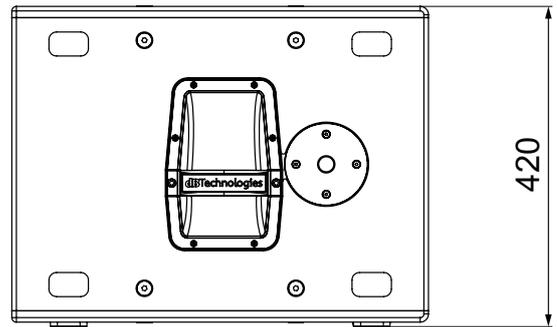
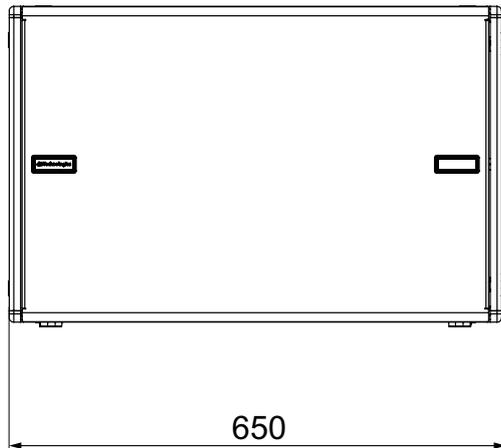
幅 × 高さ × 奥行き (突起部を含まず)

650 mm × 420 mm × 550 mm

質量

32.8 kg

寸法図



- 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。
- 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。



無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベルなどの注意書きにしたがった正常な使用状態で保証期間内に故障が発生した場合には、ティアック修理センターが無料修理致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理を受ける場合は、本書をご提示の上、ティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。商品を送付していただく場合の送付方法については、事前にティアック修理センターにお問い合わせください。無償修理の対象は、お客様が日本国内において購入された日本国内向け当社製品に限定されます。
3. ご転居、ご贈答品などでお買い上げの販売店に修理をご依頼になれない場合は、ティアック修理センターにご連絡ください。
4. 次の場合には、保証期間内でも有償修理となります。
 - (1)ご使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷
 - (2)お買い上げ後の輸送・移動・落下などによる故障および損傷
 - (3)火災、地震、水害、落雷、その他の天災地変、公害や異常電圧による故障および損傷
 - (4)接続しているほかの機器に起因する故障および損傷

- (5)業務上の長時間使用など、特に苛酷な条件下において使用された場合の故障および損傷
- (6)メンテナンス
- (7)本書の提示がない場合
- (8)本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名(印)の記入のない場合、あるいは字句を書き換えられた場合

5. 本書は日本国内においてのみ有効です。
This warranty is valid only in Japan.
6. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

- * この保証書は、本書に明示した期間・条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。この保証書によって保証書を発行しているもの(保証責任者)、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理などについてご不明の場合は、ティアック修理センターにお問い合わせください。

ティアック株式会社 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

● 電話 **042-356-9137** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-809** 一般電話から

● FAX **042-356-9185**

受付時間は、10:00~12:00 / 13:00~17:00 です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

● 電話 **04-2901-1033** 携帯電話・PHS・IP電話から

● ナビダイヤル  **0570-000-501** 一般電話から

● FAX **04-2901-1036**

受付時間は、9:30~12:00 / 13:00~17:00です。(土・日・祝日・弊社指定休日を除く)

■ 住所や電話番号は、予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

Printed in Japan

1223.MA-3756A

保証書

品名	dBTechnologies	
および 形名	VIO S115	
機番		
保証期間	本体	

買い上げ日		
お客様	お名前	
	ご住所	

この保証書は、本書記載内容で無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から左記期間中に故障が発生した場合は、本書をご提示の上、取扱説明書に記載のティアック修理センターまたはお買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

販売店	
電話	

ティアック株式会社

〒206-8530 東京都多摩市落合1-47

ティアック修理センター

〒358-0026 埼玉県入間市小谷田858

電話：04-2901-1033 / 0570-000-501(ナビダイヤル)

お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、ご了承ください。

見本

